

# 小中学校の給食費無料化は

## 町 子育て支援対策として検討

**問** 保護者負担を軽減する給食費の無料化は、試算では約9,000万円で実施できる。子育て環境の向上や若者定住促進にとって重要な施策ではないか。

**学校教育課長** 学校給食には食育という目的があり、また他にはない温かい給食（自校調理方式）の提供を

特色にして若者定住対策を進めたい。

**問** 給食費の助成はこどもへの貧困対策や貧困の予防として重要な施策であると考えるか。

**学校教育課長** 生活保護や就学援助制度から学校給食費を支給し、貧困対策、貧困の予防を行っている。

**問** 半額助成なら約4,000万円。半額から始めて無料化していく考えは。

**学校教育課長** 無料化には財源が必要であり、学校教育のみならず町全体の子育て支援対策として総合的に検討していく必要があると考える。



温かくおいしい給食はすぐに「おかわり」の列が....

## デマンド交通の町外病院行きは

### 町 病院乗り入れに合意

**問** デマンド交通の1日平均利用人数は19.2人、1人1乗車当たり運行経費は5,685円。改善のための利便性向上の取り組みは

**ふるさと定住課長** 受付時間を延長した。今後は運行数増便、乗り継ぎ改善、目的地新設などを検討する。

**問** 年間約3,600万（国から29%町から

61%）の経費ではタクシーが一日4台稼働という今の形態が限界か。規模を拡大し、抜本的な利便性向上策が必要と考えないか。

**ふるさと定住課長** 現在4台で年間4万人弱の利用が可能。しかし昨年度は6,500人、約16%に留まっている。まずはこの形態で利便性向上を図りたい。

**問** 地域公共交通協議会で町外、菅間記念病院行きの便について新設の計画は。

**ふるさと定住課長** 移動制約者（60歳以上の人と障がい者）限定、黒田原中心地経由、通院支援として乗り入れに合意をいただいた。

デマンド交通で買い物に



小野 曜子